

人との関わりを重視した交流体験活動

よしも
下関市立吉母小学校

— 学 校 の 概 要 —

① 学校規模

- 学級数：3学級
- 児童数：27人
- 教職員数：11人
- 活動の対象学年：5・6年生・13人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校は、山口県下関市の北西部に位置し、本州最西端の地「毘沙ノ鼻」を校区に有する日本海に面した海辺の学校である。校区の西には、市の花「浜木綿」を含む市指定文化財の植物群落が生育する黒嶋があり、東には、草場山の麓に田園風景が広がる。豊かな自然に囲まれ、恵まれた環境にある。
- 昭和35年北九州市の山間にある合馬小学校と海と山の交流が始まり、今年度で48年目を数える。現在では、学校のみならず合馬地区と吉母地区といった地域間交流にまで広がっている。
- 吉母小校区は、人口の減少、高齢化が進んでおり、農業・漁業を営む者も減ってきている。また、児童数の減少に伴って平成17年度から完全複式の3学級となった。このため、多くの人々とのふれあい体験が不足しがちである。

③ 連絡先

- 〒759-6541
下関市大字吉母字塩谷287番地
- 電 話：083-286-2518
- F A X：083-286-5381
- 電子メール：yoshimo-shou@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

① 活動のねらい

- 限られた人間関係の中での生活が主となる児童に、人との交流を重点に据えた体験活動を設定することにより、社会性やコミュニケーション能力等の人と関わる力を育てる。
- 地域間交流で他の地域のよさに気づかせると共に、自分たちの故郷である吉母の素晴らしさに改めて気づかせ、故郷や自然を大切に思う心を育てる。
- 様々な体験活動を通して、集団のルールや協力することの大切さ、最後まで頑張り抜く強い心を育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 北九州市立合馬小学校との交流活動
 - ・たけのこ出迎え式
(行事1時間、総合的な学習3時間)
 - ・合同宿泊学習〔林間学校、1泊2日〕
(行事12時間、総合的な学習10時間)
 - ・海水浴交歓会〔臨海学校〕
(行事5時間、総合的な学習15時間)
- 近隣校との交流活動
 - ・砂の造形コンテスト
(特別活動1時間、図工3時間)
 - ・授業交流活動
(国語・算数・社会・音楽・総合的な学習の時間等 計30時間)
- 奉仕活動・自然保護活動
(行事4時間 道徳2時間 理科2時間)
- お年寄りとのふれあい体験活動
(特別活動2時間、総合的な学習5時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- これまでの北九州市立合馬小学校との交流体験活動を踏まえ、近隣校との交流にも取り組み、より人との交流を重視した豊かな体験活動の推進をはかる。
- 教科・道徳・総合的な学習の時間等との関連を図り、社会性やコミュニケーション能力を養う。

(2) 全体の指導計画

| 活動の名称 | 実施学年 | 活動内容（教育課程上の位置づけと配当時間） | 教科等との関連 |
|--------------|------|---|-----------------------|
| たけのこ出迎え式 | 全学年 | ・北九州市立合馬小学校PTAの方々が合馬たけのこを持って来校し、吉母小児童に手渡す。 （儀式的行事1時間） | ・総合的な学習の時間 ・国語 |
| 合同宿泊学習（林間学校） | 5・6年 | ・合馬小の5・6年生とともに、北九州市田代少年自然の家で体験交流活動を行う。 （遠足宿泊的行事12時間、1泊2日） | ・総合的な学習の時間・特別活動・道徳・国語 |
| 黒嶋海岸清掃 | 全学年 | ・黒嶋海岸を児童とPTA、地域の方が協力して清掃する。清掃後に学校に植えている市の花「浜木綿」の株を移植する。 （勤労生産奉仕的行事2時間） | ・道徳 |
| 海水浴交歓会（臨海学校） | 全学年 | ・北九州市立合馬小学校の全校児童を迎え、学年交流会や海水浴、磯あそび等の交流体験を行う。（儀式的行事1時間・遠足宿泊的行事5時間） | ・総合的な学習の時間 ・特別活動 |
| 砂の造形コンテスト | 全学年 | ・近隣の吉見小学校、蓋井小学校と合同で班を編制し、砂の造形作品を作成する。 （特別活動1時間・図工3時間） | ・国語 ・道徳 |
| 授業交流 | 5・6年 | ・近隣の吉見小学校、蓋井小学校の5・6年生が各学年ごと1つの学級をつくり、学習を行う。〔各教科学習等 30時間(5年生24時間)〕 | |
| 海浜教室 | 全学年 | ・外部指導者をお招きし、吉母の自然を観察する。（理科2時間） | |
| ふれあい活動 | 全学年 | ・地域のお年寄りと交流しながらしめ飾りを作成する。（特別活動2時間） | ・総合的な学習の時間 |

2 活動の実際（5・6年生）

(1) 合同宿泊学習（林間学校）〔4月27・28日〕

①事前学習

5年生は、道徳の学習「オーストラリアで学んだこと」で、心のこもった礼儀の大切さを知り、時と場に応じて行動しようとする態度を学んだ。6年生は、道徳の学習「幸せをおく

るリーダーに」の学習を通して、集団の中で責任を持って主体的に自分の役割を果たし、協力して集団の向上に努めようとする態度を学び、宿泊学習に臨んだ。

②活動の展開

合馬小の友達とグループを編成し、役割分担を行い、互いに協力し助け合って活動することができた。特に交流タイムでは学校の話、友達の話、ゲームの話で盛り上がった。中でも心に残っているのはやはり友達の話のようである。性格や好きなものを教え合い、より理解を深めることで話しやすくなった。いつの間にか友達の輪が広がった。



また、今年度はたけのこ掘り体験を行った。たけのこの掘り方を地元の方に教えていただきながら掘ることができた。たけのこの生え方を教わったり、掘ったばかりの生のたけのこを口にするなど、日頃体験することのない感動を味わうことができた。

③事後指導

宿泊学習で体験したことを、見聞録にまとめた。合馬小の友だちと交流できた喜びや、自然とふれあうことができた喜びをまとめた。特に6年生にとっては、主体的に行動したことやリーダーシップを生かしながら協力して行動できたことが自信につながったようである。

(2) 海水浴交歓会（臨海学校）〔6月29日〕

①事前学習

総合的な学習の時間に海水浴交歓会に向けて話し合った。楽しくふれあう活動をするために、今年も砂の造形作品をつくって迎えること、きれいな貝殻を瓶に詰めてプレゼントすること、似顔絵入りの招待状を出すこと等を決めた。今年も目標をしっかりとって事前の活動に取り組んだ。

②活動の展開

合馬小校歌のリーダー演奏で迎え、海水浴交歓会がスタートした。学年の交歓会では5年生は合馬の友達を楽しませようという気持ちが活動に表れていた。



また、6年生はつながりも深く、一緒に楽しもうという活動が中心であった。全校児童の交歓会では、地引き網を体験した。合馬と吉母の親子が協力して網を引き、互いに声をかけ合い、協力して引くことができた。予想以上に魚がとれ、歓声が上がった。感動を共有した瞬間である。

③事後指導

交歓会を終え、一人ひとり作文を書いて活動を振り返った。作文には、主体的に交流ができた喜びがあふれていた。特に6年生は、最後の交歓会で感慨深いものがあったようである。6年間の時を刻み、親交を深めてきた児童たちは、今も文通を続け静かに交流を続けている。

(3) その他の活動

- 4月16日 たけのこ出迎え式～合馬小PTAの皆さんを迎える交流活動
- 5月23日 黒島海岸清掃～地域の方とのボランティア体験での交流活動
- 6月～2月 授業交流（年間6回）～近隣校との交流活動
- 10月 3日 砂の造形コンテスト～近隣校との交流活動
- 10月11日 海浜教室～吉母の自然に親しむ活動
- 12月6・7日 ふれあい活動～長寿会の方との交流活動

一つ一つの活動の意義を十分理解し、事前事後の指導を含め実践してきた。体験を積み重ねる中で、コミュニケーションを通して自分の世界を広げ、自分を見つめ直すことができたようである。



3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会

計画の段階や活動の前には、学校間はもとより、委員による地域の方との連携や他校支援関係者との事前の話し合いを行った。より有意義な活動になるための建設的な意見も出され、次年度に向けての方向性も明らかになってきている。

○ 配慮事項等

山や海の活動には多くの危険がともなう。教職員だけでなくPTAや地域の方々に一緒に活動を見守っていただくなど、協力して児童の安全確保を行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

子どもたちは活動ごとに振り返ることで、次の活動のねらいを明確にして取り組むことができた。また、今年度は教師のみならず、保護者へのアンケートも実施し、評価を行った。保護者にも好評であり、体験活動の意義を実感できる結果となった。

5 活動の成果と課題

○ 成果

少人数の本校児童にとって、様々な人々との交流は、より豊かな社会性を身に付ける場として貴重な体験と考えている。遠くの友達や支えてくださる地域の方々との会話や活動を通して、人と関わることの大切さや関わるための能力を実際に学ぶ素晴らしい機会であった。相手の顔を見て気持ちを考えて話しかけることやともに活動することを通して支えあうことは、人間関係を築く上では、とても大切なことである。さまざまな人や場面での経験が子どもたちの財産となることを願っている。

○ 課題

交流活動を積み重ね、児童が身に付けたもの、今後身に付けなければならないものがより明確になってきた。集団の中で自分を生かしていくことができるようになってきた反面、社会的な習慣やマナーの理解と実践力については、まだまだ課題が残る。

今後も伝統的な交流活動を続け、郷土に誇りをもちながらも社会でたくましく力強く生きていくための資質や能力を養えるよう、教育活動の工夫改善に努めていきたい。

